

『ダイバーシティ・セミナー』& 『社会課題に応える女性研究者によるシーズ発表会』

主催：一般社団法人首都圏産業活性化協会

共催：国立大学法人東京農工大学、国立大学法人東京外国語大学、国立研究開発法人国際農林水産業研究センター

『ダイバーシティ・セミナー』

13:25～14:15

『定着率向上につなげるための ワークライフバランスに向けた取り組みと 平成29年度両立支援等助成金について』

(厚生労働省 両立支援等助成金のご案内)

出生時両立支援コース、介護離職防止支援コース
育児休業等支援コース、再雇用者評価処遇コース等

※助成金の内容は、予告なく変更する場合があります。

※申請総額が予算額を超過した場合や申請状況により予算額が不足することが見込まれる場合は、
予算の範囲内において支給します。(厚生労働省HPより)

<http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11900000-Koyoukintoujidoukateikyoku/0000169893.pdf>

講師:

新井 淳子様 株式会社 オフィス フローラン代表
社会保険労務士
日本プレゼンテーション協会認定講師

経歴:

- ・大手予備校総務部経験後、全国展開の料理教室に転職。
生徒集客など営業に従事。
- ・店長として店舗運営全般を経験後、人事部に異動。
採用・教育・人事制度運用、労務相談業務に従事。
- ・現在社会保険労務士として人事相談、
メンタルヘルスなど労務トラブル対応、
研修講師として企業内研修を行う。
- ・プレゼン協会認定講師として企業・士業に
プレゼン研修を行う。



有用エビ類における生殖機構の解明とその基礎的知見を用いた技術開発 14:20～14:40

国際農林水産業研究センター
研究員 姜 奉廷(カン ボンチョン)氏

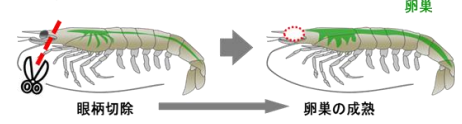
発表者略歴:

2008年 岡山大学理学部自然科学研究科大学院で博士号を取得。
同大学で1年間非常勤研究員に従事。
2009年 国際農林水産業研究センターで非常勤研究員。
2015年 同研究所に常勤研究員として就任、現在に至る。

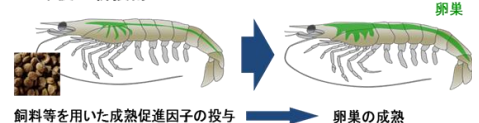
エビ養殖産業の約80%を占めているバナメイエビは、年間約2,000億尾の稚エビが生産されています。その種苗生産業務を実施するには、親エビの卵成熟及び産卵を促進するために片方の眼柄切除が行われています(眼柄から分泌される成熟抑制効果を除去するためです)。

本研究において、バナメイエビを用い卵黄形成抑制ホルモンの生体内変動の把握や成熟促進因子の探索などの生殖機構に関する基礎研究を行い、眼柄切除に頼らず成熟・産卵させるための新技術開発を進めています。

従来技術: 眼柄切除による催熟



今後の新技術



茶の重要害虫チャハマキにおける共生微生物の繁殖操作機構の解明 14:40～15:00

東京農工大学 講師 井上 真紀先生

発表者略歴:

2008年 東京大学 博士(農学)取得
2008年～2013年 国立環境研究所PD
2013年～ 現職

今回紹介するチャハマキと共生微生物の研究だけでなく、ハナバチ類における昆虫病原性微生物の生態リスク、周期的に大発生する宿主に対するウイルスの生存戦略についても研究をしています。界(kingdom)を隔てた生物(植物や動物、微生物など)がどのように相互作用し、また共に進化してきたのかに興味があります。



インドネシア・
ガジャマダ大学にて

茶の重要害虫 Homona属幼虫
インドネシアにて

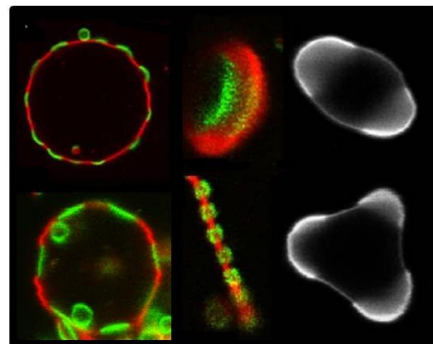
細胞模倣による新規マイクロ材料創成
15:00～15:20

東京農工大学 テニュアトラック特任准教授 柳澤 実穂先生

発表者略歴

2009年3月 お茶の水女子大学大学院修了 博士(理学)取得
2009年4月 日本学術振興会・特別研究員PD
2011年5月 九州大学大学院助教
2014年5月 現職
2012年6月 第5回資生堂 女性研究者サイエンスグラント受賞

生物細胞に多く含まれる高分子からなる柔らかな分子集合体(ソフトマター)である液滴やゲルに対し、細胞がみせる自己組織化現象を応用することで、その物性や形を制御し、我々の日用品、化粧品、医薬品として有用な新規マイクロ材料の創成実現を目指しています。



細胞膜に含まれる複数種のリン脂質からなる人工細胞膜小胞の様々な形

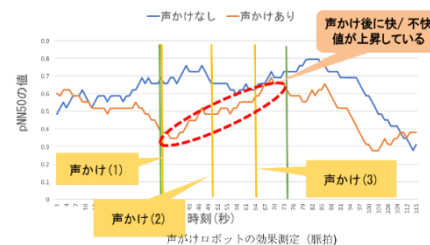
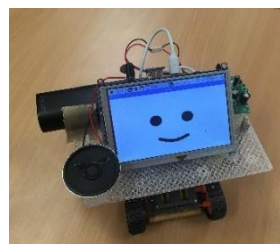
人によりそうロボットの実現に向けて～生体情報解析からの感情理解～
15:20～15:40

芝浦工業大学 准教授 菅谷 みどり先生

発表者略歴:

2010年 早稲田大学大学院理工学研究科情報・ネットワーク専攻 博士(工学)、
CREST ディペンダブルシステム研究開発センター 研究員、早稲田大学助手・非常勤務講師、横浜国立大学 講師を経て
2013年度より芝浦工業大学工学部情報工学科 准教授

現在日本は65歳以上の高齢者が全人口の1/4の超高齢化社会に直面しています。介護現場での人手不足を補うものとしてロボットが期待されているが、こうしたロボットには今後、人の気持ちを察し、充足感が得られるコミュニケーション力が求められます。我々は人の気持ちによりそうロボットの実現に向け、生体情報による感情理解を研究しています。本テーマでは、研究の内容の紹介および応用としてロボットなどに応用する際の課題について紹介します。



リハビリ時の声かけロボット(左) 効果測定(右)

『社会課題に応える女性研究者によるシーズ発表会』～医療・高齢化に関するシーズ～

インドネシアにおける高齢者医療・介護サービス
～生活実践レベルからの提案～

15:40～16:00

東京外国語大学 博士後期課程 合地 幸子氏

発表者略歴:

現在 東京外国語大学博士後期課程(インドネシア地域研究、文化人類学) 在学
2015年10月～長崎県立大学非常勤講師
2017年4月～国立国会図書館調査及び立法考査局
海外立法情報課非常勤調査員
2017年9月～目白大学非常勤講師

日本と同様のスピードで高齢化(高齢化率約10%)が進むインドネシアの高齢化対策は、政府の財政的制約を背景に、民間主体と地域社会が連携するコミュニティ・ベースの実践として展開しつつあります。本発表では、これまでの現地調査で得られた知見から社会・文化に根差す高齢者とその家族のニーズ、潜在需要に基づいたホーム・ケア・サービスを提案します。

※インドネシア進出のコンサルティングも
ご相談下さい。



家庭で療養する
高齢者



介護人材の養成



プラスチック椅子を
改造した車椅子

『社会課題に応える女性研究者によるシーズ発表会』～医療・高齢化に関するシーズ～

医療・看護・福祉・介護分野における「多言語対応情報提供システム」

Sophia Cross-lingual Health Assistant System: SoCHAS

16:00～16:20

上智大学 教授 高岡 詠子先生

発表者略歴:

- ・慶應義塾大学大学院理工学研究科計算機科学専攻博士課程修了、博士(工学)(1996)
- ・専門分野はデータベースとWebアプリケーション、コンピュータと社会(医療・教育・環境・福祉)
- ・情報処理学会山下記念研究賞(2006)、学会活動貢献賞受賞(2013)
- ・主な著書:チューリングの計算理論入門(2012)、シャノンの情報理論入門(2014)
(講談社ブルーバックス)、「計算事始め('13)および「情報科学の基礎('07)」

「国際化」、それは医療現場でも等しく、多様な背景を持つ外国人が毎日病院を訪れています。そのような状況に対応するために、タブレット上で動くアプリを使って、国内外の日本人の医師や看護師、介護福祉士、社会福祉士・精神保健福祉士等福祉に携わる方々、さらには専門性のあるボランティアと外国人の方とのスムーズなコミュニケーションを支援します。

SoCHASは翻訳のためのツールですが機械翻訳ではありません。あらかじめ想定されるコミュニケーションのシーンをいくつか用意し状況に応じてユーザーがその中から選択していく形をとります。



タブレット端末での画面表記例
(中国語版)